

〈 談話 〉 兵庫県知事選挙の結果について

兵庫県知事選挙が7月18日投開票され、兵庫高教組も加盟する「憲法が輝く兵庫県政をつくる会（以下、県政の会）」から立候補した金田峰生候補は、得票数18万4811票、得票率10.1%で健闘したものの及びませんでした。

金田峰生さん勝利に向けて、ご支援頂いた皆さんに心から感謝申し上げます。また、要求実現のためにご奮闘された組合員の皆さんに心から敬意を表します。

高教組は、金田峰生さんと政策協定を締結し、兵庫の教育をよくするために、30人学級の実現や教育条件整備のための学校予算の増額、教職員が安心して働けることができる職場づくりなど、私たちの要求をとともに実現するために奮闘しました。「命と暮らしを守る」カードを、全教職員分作成して、各学校に配布し、高教組通信では県知事選特集号を5回発行しました。さらに、Facebookの立ち上げをはじめ、SNSを活用して私たちの願い・思いを発信するなど、新しい取り組みにも挑戦しました。また、少人数学級の要求では保守の候補もそろって30人学級を政策に入れるなど、少人数学級実現に向けて一歩前進したことも大きな成果です。高校まで30人学級をとという要求や教員免許更新制度の廃止などの要求は、県民の思いが詰まった政策であり、選挙戦を通じて、そのことへの共感が広がりました。

この県知事選挙のとりくみは、直近の総選挙に繋がるものであり、私たちは今後も要求に確信を持ち、実現するため奮闘を決意します。

金田峰生さんは、街頭や演説会で政策を具体的にわかりやすく訴えました。「命と暮らしを守る県政への転換」「最賃の大幅な引き上げ、正規雇用が当たり前の社会に」「高校まで30人学級を」など、県民本位の県政実現に向けて、その要求をたくさん訴えました。県民の要求と一致した政策への共感は広がりましたが、十分に届け切れなかったこともこのような結果になった原因だと思われます。投票率が前回と変わらなかったことについて、高等学校においては、「投票に行こう」などいうよびかけとともに、要求実現としての選挙の意義など、参政権をはじめとした主権者教育を充実させていくことが強く求められているのです。

結果として自民・維新相乗りの候補が当選しました。当選者は刷新を唱えていますが、政策は井戸県政継承の候補者の政策と何も変わりません。それどころか官邸丸抱えの知事として自民政治を遂行し、維新との連携も強め、ますます県民不在の県政になる危険性が高まっています。

私たちは、兵庫県民と兵庫で働くすべての教職員とともに、県民本位の県政をこれからもめざします。合わせて、高教組は、今秋の総選挙では、さらに共同を大切にしながら、市民と野党の共同を推し進め、勝利をめざすことを表明します。

2021年7月20日
兵庫県高等学校教職員組合
書記長 稲次 寛